

# 令和8年度 東白石中学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号:34006

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実 態	課 題
<p><b>成 果</b></p> <p>◇授業や活動に意欲的に参加したり、前向きに交流する様子は見られている。</p> <p>◇アンケートの回答は、「人の役に立ててうれしい」「困っている友達に声をかけたり一緒に考える」「自分の考えが伝わるように、話の内容や順序を考えて発言する」「自分にはよいところがある」という子どもの割合が高くなった。</p> <p>◇「学習に安心して取り組むことができるように、先生方から支援をしてもらっている」「外国の人と関わることが楽しい」「意見の違う人とも、話し合える」「ICT 端末を活用した学習で、繰り返しながら改善していく面白さを感じる」という子どもの割合が高くなった。</p>	<p><b>課 題</b></p> <p>◇教職員、保護者、子どものいずれの回答でも、「1日の時間の使い方を自分で考えて生活している」の割合が高いとは言えず、個々に合った対応の充実が今後必要である。</p> <p>◇「難しいことに対しても能動的に挑戦すること」について、個人差がある。「計画的に学習することや、自分の意見を発言することが苦手」という子どもも多い。個々の支援が今後必要である。</p> <p>◇振り返りの方法の改善、知識を活用して応用問題に取り組む機会の確保、端末を活用した学習機会の充実等が、今後の課題である。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇アンケートの回答では、他者に対しての思いやりや受容性があり、自己肯定も高い。失敗を恐れないで挑戦しようという気持ちはあるものの、実際に行動で表すことには難しさを感じているという生徒が少なくなく、「分からないことはそのままにせず、分かるまで努力する」という姿勢が十分とは言えない。</p> <p>◇様々な場面で「自分の学びや成長には、様々な人が関わっていることを実感する」場面や「子ども同士の相互理解・承認を深める」場面を設けることで、「自己有用感の育成」が少しずつ実現できている。今後も継続していく。</p> <p>◇今後も、「交流学习」「専門教育学習」の機会を増やし、教職員の連携強化・子どもの相互理解を図ることで、インクルーシブ教育を充実させていく。</p>	
<p>「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力</p> <p>○多様なつながりを大切にして学びに向かう力      ○小中一貫した学習規律</p> <p>●「自ら学ぶ方法」、「仲間と学び合う方法」を身に付けること      ●学ぶ意味を理解し、得た知識や技能を進んで活用すること      ●自分の「伸び」を実感し、新たな目標をもつこと</p>	
取 組	<p>課題探究的な学習の推進 に向けて</p> <p>(1)発表する活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科や総合的な学習の時間での発表会等を通じて、「意見を伝える・聞く」「よさを認め合う」「振り返ったことを次に生かす」活動を充実させる。</li> </ul> <p>(2)主体的に取り組める授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心を考えた課題の提示や導入を工夫する。</li> <li>ICT端末を活用した「協働的な学び」「個別最適な学び」を推進させる。</li> </ul>
	<p>自治的な活動の充実 に向けて</p> <p>①生徒会活動、学年・学級活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行事や委員会活動等において生徒が主体となり、「自分たちの意思で活動し、成長している」という実感をもてる活動を充実させる。</li> <li>アンケート等の実施により、自分たちの活動について見直していく機会を設ける。</li> <li>小学校児童会との交流を実施する。</li> </ul> <p>②道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お互いのよさを伝えあい、認め合っていく授業を展開する。</li> </ul>
	<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p> <p>◇主に(2)や①について、複数のツールの中から適当なものを、生徒が自ら選択できるような環境を整備するとともに、各ツールの利点などの特色について事前指導の機会を設ける。</p> <p>◇主に②について、ICT 端末のツールを用いて各自の意見を集約し、可視化するなど、個々の意見や考えが反映するシステムを生かす。パートナー校との連携のために、オンライン会議の機会を設け、小中学校の子ども同士の声をつなげる。</p>

<本プログラムの実行に向けて>

